



〈研究〉ヘンリー・ソントン紙券信用論ノ研究

福田, 敬太郎[稿]

福田, 徳三(校)

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 28(4):455-473

(Issue Date)

1920-04

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053175>



研究

ヘンリ・シートン 紙券信用論ノ研究

商學士 福田 敬太郎 稿

法學博士 福田 徳三 校

目次

- 一 一七九七年英蘭銀行兌換停止ノ始末
- 二 シートン紙券信用論ノ要旨
 - a 信用券ノ一般理論
 - b 英蘭銀行辯護論（一七九七年ニ於ケル事情）
 - c 通貨ト物貨トノ關係
- 三 シートン說ノ貨幣學說史的地位

一 一七九七年英蘭銀行兌換停止ノ始末*

*Note on the suspension of cash payment at the Bank of England in 1797. (Overstone, Select Tracts on Paper Currency &C. PP. 95—98.)

一七四五年、蘇格蘭ノ叛軍ガダービーニ侵入シ來ツタ時ニ起ツタ取付ヲ例外トスレバ、一七九二

年マデニ英蘭銀行ニ對シテ注目スベキ取付ハ起ツタコトガ無イ。然シ乍ラ地方ノ諸銀行ガ發行シツ、アツタ銀行券ハ漸ク過多ノ傾向ヲ示シ、其ノ爲メ爲替相場ノ下落ト商業界ノ大逼迫ト成リ、一七九二年ノ後半カラ一七九三年ノ前半ニ掛ケテ驚クベキ反動期ヲ形成スルニ至ツタ。此ノ恐慌ハ多クノ地方銀行ニ致命的打撃ヲ與ヘタ。ケレドモ他方ニ於テ彼等ノ發行ニ掛カル銀行券ヲ流通場裡カラ驅逐スルコトニ由ツテ通貨ハ本來ノ價值ニ復歸シ、地金銀ノ輸出モ止ミ、爲替相場モ平價ニ達スルノミナラズ却ツテ英國ニ順調ヲ呈スルヤウニ成ツタ。

次ニ起ツタ英國紙幣上最モ重要ナル恐慌ハ一七九七年ニ之ヲ見ル。其ノ源ハ或ハ之ヲ當時英國ガ累ハサレテキタ戰爭ニ關スル事情ニ求メルコトガ出來ヤウ。或ハ外國駐在英國代表者ガ大藏省宛ニ振出シタ手形トカ、或ハ獨逸皇帝ニ對スル貸金トカラ擧ゲルコトガ出來ヤウ。或ハ又(而シテ重要ナルハ英蘭銀行ガ政府ニ對シテ巨額ノ「前渡金」advanceヲ行ツタ爲メ、一七九五、年爲替相場ガ頗ル unfavorableニ成リ、其ノ年及ビ其ノ翌年、多額ノ正金ガ英蘭銀行ノ金庫カラ引キ出サレタ事實デアルトモ云ヘヤウ。然シ結局一七九七年ノ逼迫ハ全ク政治的原因ニ歸スベキデアル。侵入軍ニ對スル恐怖ノ爲メ人心恟々タル時期ハ實ニ一七九六年ノ後半、一七九七年ノ前半デアツタ。當時多クノ人々ハ、殊ニ主トシテ小農主並ニ小商人ハ彼等ノ財産ヲ出來ルダケ現金ニ換ヘントシタ。斯クテ遂ニ大抵ノ地方銀行ハ盛ンナル取付ニ遭ツタノデアル。而シテニューカッスル及ビ其ノ他ノ地方デ此等ノ地方銀行ガ破産シテカラハ恐慌ハ愈々其ノ度ヲ高ムルニ至ツタ。現金ヲ供給セヨトノ要求ハ全國各地カラ英蘭銀行ニ集マツテ來タ。一七九五年三月ニ七、九四〇、〇〇〇磅ニ達シタコロノ英

蘭銀行金庫在中ノ硬貨並ニ地金銀ノ貯藏額ガ、一七九七年二月二十五日土曜日ニハ、來週ノ月曜日ニ大收付起ルベシト見越シタル爲メ、四方ニ散出サレテ一、二七二、〇〇〇磅ニ減少シタ。此ノ危機ニ際シテ樞密院ハ、其ガ議會ノ問題ト成ルマデ英蘭銀行ノ現金支拂ヲ停止スルコトニ決シ、一七九七年二月二十六日日曜日ニ樞密院令ガ發布サレテ、茲ニ兌換停止ガ實現シタノデアル。

此ノ政策ノ當否ニ就テハ從來大イニ意見ガ分レテ居タガ、當時ノ事情ハ其ノ可否ヲ論ズル暇ナキホド切迫シタモノデアツタ。其ノ取付ハ普通ノ方法デ防止シ得ルヤウナモノデハナカツタ。商業上ノ原因トカ、紙幣ノ過多ナル爲メトカ、或ハ英蘭銀行ノ基礎ニ對スル疑念トカニ基イテ起ツタモノデナクテ、侵入軍ニ對スル警戒恐怖カラ起ツタノデアルカラ、其ノ事情ガ繼續スル間ハ兌換券ノ通用ハ不可能デアル。加之、英蘭銀行ハ其ノ資本ヲ直チニ現金ニ換ヘル途ヲ有ツテキナカツタカラ、英蘭銀行及ビ英蘭銀行ニノミ其ノ資金ノ供給ヲ仰ゲル地方銀行ヲ救フ爲メニハ是非トモ政府ノ干涉ガ必要デアツタ。

ソコデ此ノ場合政府ノ干涉ハ當然ノモノデアルトシテモ、政府ノ處置ニ就テ非難スベキ點ハ、此ノ恐慌ノ原因タル侵入軍ニ對スル警戒ガ全ク消滅シ、英蘭銀行ノ安定性ニ就テノ公衆ノ信用ガ以前ヨリモ高ク成リ、現金支拂ニ復スルコトヲ避クル理由ガ最早ヤ存セザルニ至ツタ後マデ尙ホ現金支拂停止ヲ續ケタトコロニアル。此ノ處置ニ就テハ種々ノ動機ガ基ト成ツテキル。シカシ其ノ中デモ、取付ガ再ビ起ルカモ知レナイト云フ杞憂ト、此ノ現金支拂停止ニ由ツテ英蘭銀行ガ受ケタ便益——銀行ハ爲替ノ下落ノ爲メ地金銀ノ流出ヲ見ネバナラスト云フ憂目ヲ見ズシテ政府ニ多額ノ

advance ヲ爲シ得ルコト——トガ其ノ主ナル動機デアラウ。議會ニ於テモ屢々反對意見ガ述べラレタガ無益デアツタ。而シテ遂ニ此ノ現金支拂停止ハ無期限若クハ確定平和條約調印後六箇月マデ續クコトニ成ツタノデアアル。

英蘭銀行券ハ法律上法定支拂用具ト成ツタノデハ無イガ、現金支拂停止以後事實上其ノ役目ヲ爲シタ。此ノ事起ルヤ直チニ倫敦ノ主要ナル銀行家、貿易商等相會シテ、英蘭銀行券ヲ總テノ債務支拂ニ充ツルコト、又他ノ方面ニ於テモ其ノ事ガ普ク行ハル、ヤウ努力スルコトヲ決議シタ。同時ニ下院ニ於テハ一委員會ヲ組織シテ英蘭銀行ノ事情ヲ研究スルコト、成ツタ。暫クシテ此ノ委員會ガ發表シタ報告ニ由ルト、英蘭銀行ハ普通貸出金一一、六八四、八〇〇磅ヲ除キ尙ホ二、八二五、八九〇磅ノ餘剩資金ノアルコトガ判ツタ。故ニ英蘭銀行ノ支拂能力ニ就テハ疑ヲ容ル、餘地ガ無カツタ。加之、商人並ニ一般銀行ニ由ツテ英蘭銀行券ガ現金同様ニ受授セラレ且ツ國庫ニ對スル一切ノ支拂ニモ充テラレタカラ、英蘭銀行券ノ通用ハ充分保證セラレタ譯デアアル。同時ニ英蘭銀行ハ初メノ内其ノ發行ヲ適度ニ制限シタカラ其ノ價值ガ過多ノ爲メ減少スルコトモナク隨分長イ間金ト殆ド平價ノ狀態ヲ續ケテキタ。

斯ル變態ハ實ニ嘗テ經驗セラレナカツタモノデアアル。ソコデ英蘭銀行ガ最早ヤ其ノ銀行券ニ對シ要求次第ニ兌換スル義務ヲ免レタ場合ニ當ツテ、銀行券ノ價值ヲ決定スル事情ニ關シテ多クノ背理的論說ガ現ハレタコトハ怪ムニ足ラナイ。然シ乍ラ間モ無ク、サーフランシス・ペーリング、ヘンリ・ソントン、ロード・キングノ如キ達識ノ士ガ輩出シテ、紙幣價值ノ保持ハ紙幣數量ノ制限ニ由ツテ行

ハル、理ヲ鮮明ニシタ。而シテ停止後下院ニ於テ議論紛々タル間ニベーリングハ一冊子ヲ著ハシ、停止繼續中ハ銀行券發行ノ制限ガ絶對的ニ必要ナルコトヲ説キ、銀行券ヲ legal tender トスベキコトヲ推奨シタ。

* Observations on the establishment of the Bank of England, and on the Paper circulation of the Country, by Sir Francis Baring, Part. — 1797?

此ノ提案ノ目的ハ此ノ停止ニ由ツテ銀行取締役ニ與ヘラレタ特權ヲ濫用スル力ヲ奪フコトニアツタ。然シ濫用ノ有無ニ就テ論争ガ起リ、結局通貨ノ價值ヲ左右スル力ハ何等ノ制限ナク取締役等ニ一任セラレタ。取締役等ガ長キ間美事ニ節度ヲ守リツ、其ノ比類ナキ權能ヲ振ツテキタコトハ注目ニ値スル。銀行券ノ價值ガ標準以下ニ下落シ始メタノハ一八〇〇年デアル。ケレドモ數年間ハ下落ノ速度ハ激シクナカッタ。其ノ價值下落ガ著シクナリ社會ノ視聽ヲ集メタノハ一八〇九年及ビ一八一〇年ノ頃デアル。其レ以後ノ論争ハ所謂「プリオン・コントロヴァン」トシテ知ラレテキルモノデアル。

二 ソーントン紙券信用論ノ要旨

* An Enquiry into the Nature and Effects of the Paper Credit of Great Britain, by Henry Thornton, M. P., London 1802. (Overstone, Select Tracts on Paper Currency, etc, PP. 137—340)

銀行家ヘンリ・ソーントンハ一七六二年ニ生レ一八一五年ニ死ス。一七八三年以後ハ終身下院ノ議員デアッタ。

此ノ著作ハ英國ニ於テ嘗テ公ニセラレタ何レノ著書ヨリリモ遙カニ有益ナル金錢取引上ノ智識ヲ藏シテキルトマカロツクノ推賞シタホド英國貨幣學說發達ノ上カラ見落スコトノ出來ナイ重要ナル意義ヲ持ツテキル。著者ハ巨商ニシテ(シエラ・シオネ會社發起人ノ一人)同時ニ英國銀行ノ取締役デアツタ。從ツテ其ノ取扱フ問題ヲ研究スルニ當ツテ多クノ材料ヲ獲ルニ便利ナ地位ニ居タ。(其ノコトヲ彼自ラ意識シ其ヲ誇トシテキル風ガ書中屢々見出ザレル)。然シ乍ラ彼ガ英國銀行ニ關係ガアツタ事實ハ不知不識ノ間ニ其ノ判斷ヲ偏シタモノトシタ。彼ノ理論的體系ハ大體ニ於テ完全デアアル且ツ頗ル確固タルモノモアル。ケレドモ一旦其ノ理論ヲ實際ニ適用スル場合ニナルト彼ハ自分ノ推論ガ總テ英國銀行ニ都合ヨイヤウニ解釋シタ。而シテ銀行ノ支拂停止並ニ其ノ結果ヲ是認スルヤウニ努メタ。英國銀行並ニ其ノ後援者タル政府ハ彼ニ於テ有力ナル辯護者ヲ發見シタ譯デアアル。ケレドモ吾人ハ兌換停止ノ止ムヲ得ザルコトヲ認ムルニシテモ、其ガ侵入軍ニ對スル警戒ノ去ツタ後ニマデ續イタコトニ就テノ積極的ノ理由ヲソーントンカラ聽クコトガ出來ナイノヲ甚ダ遺憾トスル。勿論彼モ銀行券ノ價值ヲ維持スルタメニハ發行ニ對シテ制限ノアルコトヲ必要トスル意見ヲ懷イテ居タ。然シ其ノ價值ノ保證ハ何時ニテモ所持人ニ對シテ硬貨ヲ支拂フコト以外ニ存シナイト云フコトヲ全ク示サナカツタ。ソーントンハ一八〇〇年及ビ一八〇一年ニ於ケル爲替相場ノ下落ヲ戰爭ト、凶作ノ爲メ外國カラ穀物ヲ輸入シタコトトニ由ル對外支拂ノ増加トニ歸シタ。然シ此等ノ事情ハ、タトヒ real exchange ニ影響ヲ及ボスカモ知レナイトシテモ、(恐クハ實際及ボシタデアラウガ)、決シテ當時ノ地金銀ノ市價ガ mint price 以上ニ騰貴シタ事實ヲ説明スルコトガ出來ナイ。此ノ事實ハ

銀行券ノ發行過多ト兌換停止トニ由ツテノミ説明スルコトガ出來ル。

ケレドモ此等ノ重大ナル誤謬アルニ拘ラズツォントンノ著作ハ、其ノ實際的ナル性質ト其ニ包マレタル興味アル議論トニ由ツテ、經濟學的文獻トシテノ重要ナル價值ヲ失フコトガ無い。(以上主トシテマカロツクノ註ニ依テ。 Overstone, Select Tracts on Paper Currency, etc. Preface P. xi-xiii)今此ノ大作ノ結構ヲ窺ヒ其ノ要旨ヲ略述スルコトニシヨウ。

「英國紙券信用ノ性質及ビ效果ニ就テノ研究」ハ全篇十一章カラ成ツテキル。ホーナーハ本書ノ結構ガ頗ル不規則デアルコトヲ遺憾トシテ有效ナル按配ヲ施ス目的デ一八〇二年十一月、エディンバラ・レビュー」ノ創刊號デ評論ヲ行ツタ。^{*}

^{*} Memoirs of F. Horner, Vol. : P. 203 參照(Memoirsノ中ニ「エディンバラレビュー」ニ出シタホーナーノ此ノ論文ガ採録セラレテキナイノヲ甚ダ遺憾トスル。)

ホーナーノ解題ニ依レバ本書ニ取扱フトコロノモノヲ四箇ノ題目ニ分ツコトガ出來ル。(バラクレイ

信用券ノ一般理論ニ關スルモノ

(一) 英國ニ行ハレタル信用制度及ビ紙幣制度ノ叙述

(二) 一七九七年ノ英蘭銀行ノ難關ニ就テ

(三) 通貨ト物價トノ關係ニ關スル議論

(四) 予ハ便宜ノ爲メ全篇ヲ左ノ如ク三方面カラ研究シタ。

A 信用券ノ一般理論

ツォントンハ信用ノ意義ヲ頗ル廣ク解シテ、商業信用トハ商人間ニ於ケル商業取引ニ關シテ存在

スル一切ノ信任デアル Select Tracts P. 145) ト考ヘタ。而シテ此ノ信用ガ貨幣授受ニ現ハレルト
キニ信用券ノ發生ト成ル (P. 146) 即チ紙券ヲ以テ支拂ノ保證ト信任トヲ發表スルノデアル。
手形ハ其ノ好適例デアル。

・ソコデソーンソンハ第二章ニ於テ隨分詳細ニ手形論ヲ行ツタ。ケレドモ更ニ重要ナルハ第三章ニ
行ツタ議論即チ信用券ノ流通速度ニ關スルモノデアル。

流通紙券ノ中ニ第一ニ擧グベキハ、銀行ガ發行スルトコロノ Notes Payable to Bearer on Demand
「要求次第持參人拂紙券」所謂「札」デアル。ソレカラ又各種ノ商業手形モ流通紙券ノ中ニ數ヘネ
バナラス。ケレドモ硬貨及ビ銀行券ハ流通速度ガ大デアルガ、普通ニ手形ハ流通速度ガ小デアル。
其ノ理由ハ硬貨及ビ銀行券ニハ利息ガ付カナイカラ永ク持ツテキテモ其レカラ直接ノ收入ガ出テ來
ルコトハ無イ。之ニ反シテ普通手形ハ其ノ所持者ニ對シテ利息ヲ産ムモノデアルカラ永ク所持スル
ホド其レカラ得ルトコロノ收入ガ大キイ。故ニ前者ハ早ク轉帳スルケレドモ後者ハ移動スルコトガ
遲イノデアル。(P. 163.)

故ニ同ジ手形デモ商業上ノ習慣ニ由ツテ一定期間通貨トシテ支拂ハレル場合ニハ割引セズシテ通
用セラル、カラ其ノ流通速度ハ銀行券ト變ラナイコトガアル(P. 163.) デアルカラ此ノ利息ヲ産ム
カ産マナイカハ流通速度ト大ナル關係ガアルコトガ判ル。

一國ニ於ケル流通用具ト商業支拂トノ間ニ一定ノ比例ガアルコトハ從來考ヘラレテキルトコロデ
アルガ、流通用具ニ對スル利息ノ有無ガ支拂額ニ影響スルコト頗ル大デアル以上、單ニ流通用具ノ

數量ノミヲ考ヘニ入レルコトハ充分デ無イ。茲ニ於テ流通速度ヲ考ヘテ見ル必要ガアル。(P. 165.)
ントントンハ此ノ點ニ於テアダムスミスモ誤ツタ考ヘ方ヲシテキルトテ論難シタ。(P. 16516.)

次ニ同ジ硬貨ヤ銀行券デモ時期ニ由ツテ其ノ流通速度ヲ異ニスルモノデアル。其ノ變化ノ原因ハ諸種アルガ、先ヅ信用狀態ガ頗ル佳良デアル場合ニハ其ノ流通ガ速メラレル。即チ信用ガ確實デアレバ準備額トシテ止メテ置ク分量ガ少イカラソレ丈ケ硬貨ノ流通スル機會ガ多イ。之ニ反シテ信用ガ薄弱デアレバ支拂準備トシテ掌中ニ握ツテキル額ガ大トナリ、ソレダケ流通ノ機會ヲ失フ。恐慌時ニ際スル金貨ノ貯藏ハ此ノ理由ニ據ル。(P. 167.)

斯クノ如ク流通用具ハ其ノ種類ニ由リ、又其ノ時期ニ由リ其ノ流通速度ヲ異ニスルモノデアル。流通速度ノ大小ニ由ツテ其ノ支拂ニ充テラル、額ガ違ツテ來ル。然ルニ信用狀態ノ惡イ時ニハ金貨ノ流通ガ緩漫ニナル。此ノ時ニ於テモ同額ノ支拂ヲナサネバナラスノデアルカラ、勢ヒ他ノ手段ニ由ツテ流通用具ヲ増加セネバナラス。從ツテ信用狀態ノ險惡ニナツタ場合ニ銀行券ノ増發ハ當然ナコトデアル。(P. 170.)

ソントントンノ此ノ銀行券増發必要論ハ、一方スミスノ銀行券發行定額論ニ對抗スルト共ニ、他方當時ノ英蘭銀行ノ發行政策ヲ辯護スルモノデアル。

尙ホソントントンハ銀行券廢止論ニ對シテ次ノ如ク云ツテキル。

假リニ銀行券ヲ廢シテモ其ノ代リヲスルモノ例ヘバ爲替手形ノ如キモノガアル。ヨシ此ノ手形類ヲ一切廢シテモ諸種ノ工夫ヲ凝ラシテ金ヲ用フル不便ヲ省クニ至ルデアラウ。例ヘバ銀行ノ力ニ依

ツテ帳簿上ノ決濟ノ如キコトガ行ハレル。斯クシテ銀行券ハ廢止セラレテモ尙ホ信用ノ存在ヲ動カスコトガ出來ナイ。然ルニ銀行券ノ形式以外ノ信用例ヘバ帳簿上ノ信用、保證人ニ依ル信用、口頭上ノ信用ノ如キハ總テ劣惡ナル信用デアル。故ニ凡ソ商業上ノ信用ハ銀行券トシテノ紙券信用 Paper Credit 如クハナイ。P. 1712

ソーントンガ斯クノ如ク信用ヲ以テ彼ノ經濟論ノ嚮導概念トシ其ノ上ニ一切ノ論證ヲ行ハントシタ事ハ頗ル注目スベキデアル。第十九世紀ノ初頭既ニ最近學者ノ思考スル事實ヲ豫想シタモノト云ハネバナラス。マーシャル教授ノ近業「工商論」第一篇第九章第一款ニ謂ヘラク、……………社會ノ全構造ハ信任ノ上ニ立ツ。……………此ハ個人的要素ヲ含ムノミナラズ其レ以上ノモノヲ含ム。……………其ハ時ニ『商業的信用』ト呼バルレドモ、其ノ語ハ全體ヲ覆ヒ難シト思ハレル。吾人ハ其ヲ『社會的信用』ト呼ブ。其ハ個人的信用ト類似ノモノデアル。ケレドモ亦大部分社會的性質ニ依ルモノデアル。……………而シテ——一ノ重要ナル細目ヲ特筆スレバ——交換ノ手段トシテ且ツ一切ノ經濟的取引關係ヲ測定スル標準尺度トシテ働クトコロノ通貨ノ確實ナルコト、能ク活動スルコト、ニ依ル。……………(Industry & Trade. P. 1656)

信用ハ通貨ヲ造リ、通貨ノ確實ハ信用ヲ確實ニスルコトヲソーントンマーシャルカラ學ブ。

B 英蘭銀行ノ職能亡一七九七年ノ難關

英國ニ於テハ既ニ一七九七年ニ三百五十三個ノ地方銀行ガアツタ。此等ノ地方銀行ノ利害得失ニ就テハソーントンガ第七章ニ詳細ニ述ビテキル。(P. 236—P. 261)

此等ノ地方銀行ハ各々銀行券ヲ發行シテキタ。ケレドモ其ノ流通區域ハ頗ル地方的デアル。此ノ點ニ於テ中心ヲ形造ツテキタノハ英蘭銀行デアツタ。ソコデ英蘭銀行ノ性質ヲ解明シヤウ。(P. 173)

英蘭銀行ノ資本ハ約千二百磅デアル。尙ホ其ニ四百萬磅ノ積立金ガアル。行政機關トハ全ク獨立シテキテ、却ツテ政府ノ爲メニ多額ノ資金ヲ貸與スルガ常デアル。而シテ商人ニ割引ノ方法ニ由ツテ貸出ス割合ハ比較的少イ。銀行ガ政府ニ斯クノ如キ多額ノ貸與ヲ行フノハ習慣ニ由ルト共ニ相互ノ利益ニモ因ル。

ソコデ論者或ハ一七九七年ノ現金支拂停止ハ此ノ政府ニ對スル貸金ノ多額ナルコトニ原因スルト云フカモ知レナイ。ケレドモ其ハ誤リデアル。事實當時政府ハ一枚ノ金貨モ持ツテキナカツタ。却ツテ政府ハ其ノ時四百五十萬磅ノ償還ヲ銀行ノ方カラ迫ラレ、流通シテキタ銀行券ヲ回收シテ銀行ニ支拂ツタ程デアル。(P. 198) 此ヲ見テモ政府ニ對スル貸金ガ現金支拂停止ノ原因デナイコトガ判ル。

ソレデハ支拂停止ノ原因ハ銀行券發行額ガ過多ニ成ツタカラデアラウト疑フ者ガアラウ。其ニ就テ一應ノ説明ガ必要デアル(P. 176)。

第一ニ政府ニ貸金スル積リテ過多ノ銀行券ヲ發行スルコトガアルト思フコトハ何ヨリモ道理ノ無イコトデアル。タトヒ其レガ出來ルニシテモ高々四五百萬ガ極度デアツテ、其レ位ノ金額ノ爲メニ政府ガ公衆ヲ驚カシ英蘭銀行ニ迷惑ヲ掛ケルヤウナコトハナイ。此ノ點ハ英蘭銀行ト大陸ノ國立銀

行トガ全ク其ノ趣ヲ異ニスルトコロデアアル。即チ大陸ノ國立銀行ハ紙幣トシテノ通用力ヲ有スル銀行券ヲ發行シ全ク政府ノ御用機關デアアル。又此等大陸諸國ノ政府ハ英國政府ノ如ク民間カラ一時ニ多額ノ金額ヲ借上グル道ヲ持ツテキナイ。ソコデ必要ガアレバ銀行ヲシテ過多ノ銀行券ヲ發行セシメルヨリ仕方ガ無イノデアアル。

ソコデ銀行券ノ發行ハ政府ノ爲メデナイコトガ判ツタガ、更ニ銀行券ハ決シテ甚シク減少スルコトガ出来ナイモノデアルト云フコトヲ忘レテハナラス。今倫敦ニ於ケル取引ノ大部分ハ手形ニ由ツテ行ハレテキルガ其ノ支拂ハ極メテ確實ナルコトヲ要スル。而シテ其ノ支拂ハ皆英蘭銀行券デ行ハレテキルノデアアルカラ銀行券ノ不足ハ時ニ支拂ニ支障ヲ生ズル恐レガアル。故ニ支拂ノ確實ヲ期スル爲ニハ如何シテモ潤澤ナル銀行券ヲ必要トスル。是レ英蘭銀行券ノ發行セラレル所以デアアル。

(P. 1834.)

ケレドモ此ノ銀行券發行ノ過多ガ現金支拂停止ノ原因デアルト思ツテハイケナイ。否、却ツテ若シモ英蘭銀行ノ處置ニ缺陷アリトスレバ、當時銀行券發行ヲ制限セザリシ點デハナク、其ノ場合大イニ擴張シナカッタ點ニアル (P. 197.)。人心恟々タル時ニ際シテ發行ヲ制限スルノハスミスノ教ユルトコロニ副フヤウデアアル。然シ其ハ地方銀行ノ爲スベキコトデアアル。ケレドモ英蘭銀行ノ如ク國家ヲ負ツテ立ツ銀行ハ斯クノ如クデアツテハイケナイ。其ノ事ハ當時ノ實際ガ示シテキル。地方銀行ト中央銀行トハ異レル原理ノ上ニ立ツベキデアアル。

茲ニ於テ吾人ハ信用伸縮ト貿易並ニ工業トノ關係ヲ一覽シヨウ (P. 186 中)。或人ハ金價ノ下落

ニ伴ツテ銀行券ヲ縮少スルコトハ英蘭銀行ノ義務デアルト主張スル。此レハ單ニ理論的ノ議論デアルガ頗ル當然ノコトデアルトセテバナラス。又或人ハ銀行券ノ縮少ヲ行ツタ爲メ商業界ノ不振ガ甚シイナラバ商人ハ貨幣ノ不足ヲ補フ爲メ外國カラ金ノ輸入ヲシヤウト圖ルデアラウト考ヘル。ケレドモ不景氣ノ甚シイノガ樂ダト云フ意味デアルナラバ此ノ議論ハ受取リ難イ。唯、貨幣ノ不足ハ金ノ輸入ヲ起スト云フコトハ正シイ。然シ金ノ輸入ヲ圖ルノハ如何ナル商人デアルカ。貿易商デアルコトハ勿論デアル。ソコデ銀行券ノ増減即チ信用ノ收縮ハ貿易ト關係ガアルコトガ判ル。又貿易ノ不振ハ直チニ工業ニ反映スルコトハ明カデアル。

然シ注意スベキコトハ不景氣ノ頗ル激シイコト、銀行券ノ極端ナル收縮ハ決シテ貿易ヤ工業ヲ盛大ニスル所以デハナイ (P. 192)。何トナレバ信用制限——貨幣不足ニ因スル金輸入ノ傾向ハ一時的ノ利益ニ過ギナイカラデアル。國內ニ於ケル信用制限ハ結局ハ工業ノ不振ヲ伴フモノデアル。故ニタトヒ銀行券ヲ適度ニ制限スルコトハ或ヒハ自國ニ逆調ナル貿易均衡ヲ矯スカモ知レナイト云フ望ミハ許サルベキモノデアルニシテモ、急激粗暴ナル銀行券ノ收縮ハ金ヲ自國ニ招キ寄セルコトハ出來ナイバカリカ、却ツテ銀行ノ存立ヲ危クスルモノデアル。是ヲ以テ見テモ或ル論者ノ云フ如ク一七九七年ニ銀行券ヲ收縮シナカツタコトハ英蘭銀行ノ罪デアルト云フコトハ出來ナイ。

以上ソーントンハ英蘭銀行ガ一七九七年ノ難局ニ處シテ採ツタ態度ヲ辯護シタ。尙ホ彼ハ政府ガ之ニ干渉シタコトガ當ヲ得タコトデアルト辯ジ、更ニ章ヲ改メテ現金支拂ヲ停止スルニ至ツタ理由ヲ説明シタ。

貿易ガ行ハレル以上必ズ貿易均衡ノ問題ガ起ル。貿易差額ノ精算ハ爲替ニ由ルケレドモ終局ノ決濟ハ金ニ由ラチバナラス。金ハ輸出入ノ上デハ他ノ商品ト同様ニ取扱ハレル (P. 214) 金貨ノ輸出ハ貿易均衡ガ自國ニ逆トナツタ場合ニ起ルモノデアル (P. 216) ソコデ問題ト成ルノハ金價ノ騰貴ト英蘭銀行トノ關係デアル (P. 216) 英蘭銀行券ノ増發ガ金價ノ騰貴ヲ起シタト云フ議論ガアルケレドモ其ハ誤リデアル。外國ニ對スル決濟ノ爲メニ金貨ガ要求セラル。スルト英蘭銀行ノ金庫ハ日々ニ乏シクナル。銀行ノ方デハ其ヲ補充スル目的デ少シ高イ價格ヲ辛棒シテデモ金塊ヲ買入レテ再ビ金貨ヲ刻造スル。然ルニ一方デハ火事場泥棒的ニ金貨ヲ熔解スル人々ガ居ル。斯クテ同ジ場所デ刻造者ト熔解者トガ互ニ絶エズ活動シテキルノデアルガ、此ノ場合ニ損失ヲ蒙ルノハ勿論銀行ノ方デアル。斯クテ金價ハ騰貴セザルヲ得ナイ。

斯クノ如ク英國ニ於テ金貨ノ價值ガ下落スル理由ハ何デアルカ。此ハ金貨ト銀行券トノ兌換性ニ因ルノデアル (P. 219) 即チ金價ノ騰貴アルニ拘ラズ金貨ハ常ニ「オンス」ニ付三磅十七志十片二分一ノ割合デ刻造セラレル。然ルニ一方ニハ紙券ガ流通シテキル。其ノ紙券ガ何カノ都合デ下落スレバ其レト引キ換ヘラレルベキ金貨ノ價值ハソレ丈ケ下落セザルヲ得ナイ。茲ニ於テ金ノ mint price ガ市場價格ト大ナル開キヲ作ルコトガ出來ナイ以上銀行ハ高イ金ヲ買ツテ安イ金貨ヲ造ラチバナラヌ破目ニ陥ル。然ルニ若シ金紙ノ兌換性ヲ廢スレバ紙券ノ下落ハ金ニ影響シナイ。然ウスレバ金ハ常ニ同一ノ價值ヲ保持スルコトガ出來ル。

スミスハ紙券ノ減少ハ此ノ弊ヲ救フニ足ルト云フガ確カニ一理アル (P. 219) 紙券ノ減少ハ其ノ

價值ヲ高メ從ツテ其ト兌換セラル、金貨ノ價值ヲ高メル。ケレドモスミスノ說ノ根據ガ金貨ノ價值ノ下落ハ紙券ノ増發ノ結果デアルトシテキル點ニ於テ同意シ難イ。右ノヤウナ次第デアルカラ人心不安ノ折ニ當ツテ金貨ノ價值ヲ保持スルニハ紙券ノ兌換性ヲ停止スルヨリ他ニ途ハナイ。

ソーントンハ一七九七年ノ現金支拂停止ノ理由ヲ述ベタル後、別ニ一章ヲ設ケテ (chap. II. P. 299) 當時何人モ金ヲ補充シ能ハザリシ所以ヲ説キ。銀行當事者ガ豫メ準備スルコトナカリシコトニ對スル非難ノ當ラザル譯ヲ叙シタ。是ヲ以テ彼ガ英蘭銀行ノ立場ヲ辯護シテ餘ストコロナシト言ハレル。但シ其ノ論據ヲ仔細ニ點檢スルトキニハ頗ル基礎ノ薄弱ナルモノアリ、又其ノ推論ノ稍常ヲ缺クモノガアルコトヲ發見スルモ此レハ爲メニスル議論ノ避ケ難キトコロデアルト云ハテバナラス。

C 通貨ト物價トノ關係

物價構成ノ原理ハ賣手買手ノ競争デアル (P. 262) 紙券モ亦同一ノ原理ニ支配セラレル (P. 263) 蓋シ財ハ紙券ニ對シテ賣ラレ、紙券ハ又財ニ對シテ賣ラレルト云フ關係ガアルモノデアル。加之、紙券ハ或ル人々ニ取ツテハ麴麴ト同様ノ必需品デアル。即チ紙券ハ商人ニ由ツテ買ヒ求メラレル。若シ其レヲ獲ルニ困難ヲ感ズル場合ニハ、買手ハ賣手ノ勢力ノ下ニ立チ、其ニ對シテ多クノ財ヲ與ヘテバナラス。然ルニ銀行ニ由ツテ手形ノ割引ト云フ手段ヲ以テ紙券ヲ容易ニ獲ルコトガ出來ルヤウニ成ルト、商人ハ皆盛シニ借り出シヲ行ヒ、其ヲ元手トシテ投機ヲ遣ル。彼ハ貨幣ヲ澤山持ツテキルカラ賣ルコトヲ止メテ盛シニ買ハウトスル。此ノ買ハウトスル心ガ盛シニナレバナナルホド價格

ガ騰貴スルノデアル。

一方ニ於テ紙券ノ減少ガ物價ノ下落ヲ生ズルハ勿論デアル。之ヲ實際ニ徴スレバ一七九五年紙券信用が大イニ衰ヘタ時穀價ノ下落二割乃至三割ニ及ンダ所ガ數箇アツタ。此ハ農夫ガ支拂手段ヲ獲ル爲メニ小麦ヲ賣ツタカラデアル。即チ紙券信用ノ衰微ト共ニ現金ヲ持ツテキル人々ガ非常ナル勢力ヲ持チ市場ヲ支配シ農夫ヲシテ廉價デ小麦ヲ手放サザルヲ得ザルニ至ラシメタ。

斯クノ如ク紙券ノ多少ハ物價ノ高低ヲ惹キ起スモノデアル (P. 136) 或人ハ其ノ原因ト結果トノ轉倒デアルト云フカモ知レナイ。誠ニ物價ノ騰貴セル結果トシテノミ、又ハ主トシテ其ノ結果、紙券ノ増發ガ起ルモノデアルト言ヒ得ル場合ガアルコトヲ否定スルノデハナイ。ケレドモ少クトモ或ル場合ニハ紙券ノ増加ガ物價騰貴ノ原因デアルコトガアルト主張スルノデアル。

國內ニ於ケル物價騰貴ハ輸出ヲ減ジ輸入ヲ増ス (P. 137) ケレドモ此ノ結果ガ續クコハ爲替相場ノ不變ヲ假定シナケレバナラス。然ルニ其ハ不可能ナル假定デアル。何トナレバ輸出減退輸入増加ノ結果貿易均衡ハ自國ニ逆トナル。其ノ結果外國ニ於ケル自國宛ノ爲替ハ下落スル。スルト自國品ヲ買フ外國商人ハ自國品ノ高價ナルニモ拘ラズ爲替相場ノ關係デ買フコトニ成ル。斯クシテ爲替相場ノ下落ガ輸出ヲ起シ同時ニ輸入ヲ盛ンニスル。結局英國内ノ物價騰貴ハ貿易均衡ノ逆調ヲ起サナイ。

然ルニ外國商人ガ英國品ノ輸入ヲ企テルニ至ル所以ハ其ノ國ノ貨幣價值ガ英國ノ貨幣價值ヨリモ大デアアルカラデアル。即チ其ノ國ノ貨幣トノ交換ニ於テ英國ノ貨幣並ニ紙券ガ安ク見積ラレルノデ

アル貨幣ガ安ク見積ラレルコトハ直チニ地金ノ下落ヲ起スト云フコトハ出來ナイ。地金ハ商品デア
ルカラ自然的價值ヲ保持スル。ソコデ貨幣ハ潰鑄サレテ地金トシテ輸出サレル。斯クシテ金ノ市價
ハ mint price 以上ニ昇ルニ至ルノデアル。

斯クノ如ク紙券ノ膨脹ハ物價並ニ金價ノ騰貴ヲ起スモノデアルガ、前述ノ如ク其ノ原因結果ノ先
後ニ就テハ爭ヒナキヲ得ナイ。ケレドモ最モ公平ナル判斷ヲスレバ金價ニ就テ地金ガ硬貨ヨリ高ク
ナツテ其ノ狀態ガ永久ニ續ク場合ニハ紙券ノ増發ガ原因デアリ、然ラザル場合ニハ結果デアルト云
フコトガ出來ル。即チ爲替相場ガ紙券ノ數量ヲ甚ダシク減少スルコトナクシテ回復スル場合、例ヘ
バ凶作ニ原因スル如キニハ、紙券ノ増發ガ物價騰貴ノ原因デアルト云フコトハ出來ナイ (P. 2889
Et. Net).

紙券増發ハ物價騰貴ヲ起サズト主張スル論者ハ二個ノ假定ヲ説明セネバナラス (P. 299. ff.)。即チ
紙券増發ハ物價ニ無關係ナルコト、及ビ通貨ノ膨脹ニハ自ラ限度ガアルコト、之レデアル。此ノ點
ニ就テハ佛國ノ地券ト英蘭銀行券トヲ全ク區別シテ考ヘネバナラス。地券ハ其ノ背後ノ土地ヲ目的
トシテキルカラ其ノ所持者ハ容易ニ手放スコトハナイ。從ツテ其ノ發行額ハ必シモ皆流通スルコト
ハナイ。然ルニ英蘭銀行券ハ信用ノ如何ニ由ツテ價值ガ變動スルコトナク且ツ利息ヲ産ムコトモナ
イカラ容易ニ轉帳シ其ノ發行額ハ常ニ流通スルモノデアル。其ノ結果ハ購買力ノ増加ト成リソレダ
ケ物價ノ騰貴ヲ起サルヲ得ナイ。更ニ物價ノ騰貴ハ產業ヲ振興スル所以デアルカラ紙券ノ増發ハ
無限ニ行ヒ得ル。故ニ紙券ノ價值ヲ維持スル爲メニハ其ノ發行ヲ適度ニ制限セネバナラス。

ソーントンガ斯ク紙券ト物價トノ關係ニ重大ナル意義ヲ付シタ譯ハ言フマデモナク彼ノ主張セントスル紙券信用ノ尊重セラレンコトヲ希望シタトコロニアル。彼ハ紙券信用ノ物價問題上ニ有スル地位ヲ確立シ、殊ニ一七九七年ニ先ヅ時節ニ際シテハ最重要ナル職能ヲ盡シタコトヲ力説シタ。戰時又ハ恐慌時ニ於ケル紙券信用ノ如何ニ必要ナルモノデアルカヲ説イタ。而シテ英國ガ古クカラ紙券信用ノ制度ヲ有スルコトハ實ニ英國將來ノ爲メ賀スベキコトデアルト叫ンダ (P. 30.)。

三 ソーントン説ノ貨幣學說史的地位

今吾人ハソーントンニ適當ナル貨幣學說史上ノ地位ヲ與ヘヤウト思フ。ソーントンハリカードノ有名ナル論說ノ發表ニ先ダツテ彼ノ意見ヲ公ニシタ。彼ノ引用スルトコロノ著者ハ主トシテアダム・スミスデアルガ、屢々ロック、ヒューム、モンテスキュー及ビスチュアートニ及ンデキル。ケレドモホフマンハソーントンヲ以テマルサス、ツークヲ主將トスルジョン・フアラートン、ジューム・ス・ウキルソーン一派ノリカード反對黨ノ急先鋒デアルト見タ。

サテソーントンノ貨幣ノ概念ハ如何。

ソーントンハ多ク Circulating Medium 「流通用具」ナル言葉ヲ用ヒテキル。而シテ其ノ中ニハ單ニ硬貨バカリデナク、銀行券並ニ手形其ノ他ノ所謂 Paper Credit 「紙券信用」ヲ含メテキルノデアル。ソーントンガ果シテ此等ノ一切ヲ貨幣ナリト認識シタカ如何カハ彼自ラ斷言シタコトガ無カッタヤウダガ、少クトモ此ノ「流通用具」ガ實質上貨幣タル本分ヲ盡シテキルモノデアルコトハ彼ノ

疑ハザルトコロデアツタ。

從ツテソーントンガ金銀ヲ素材トスル硬貨ニ就テ論ズルトコロハ頗ル小ナル部分ヲ占メテキルニ過ギナイ。唯商品トシテノ地金ニ關スル範圍デ硬貨ガ問題トナルノミデアル。故ニ硬貨價值學說ヲ彼カラ聽カウト思フノハ誤ツテキル。彼ハ純然タル銀行券價值論者デアリ紙幣價值學說ノ樹立者デアル。而シテ彼ハ銀行券價值又ハ紙幣價值ノ根據ヲ紙券信用ニ置イタノデアル。

然シ銀行券價值ノ根據ガ紙券信用デアルコトハ必ズシモ信用ノ厚薄ニ由ツテ價值ガ上下スルコトヲ意味シナイ。ソーントンハ價值ノ上下ハ全ク所有者ノ「勢力」Powerニ係ルトシタ。換言スレバ價值ノ決定需要供給ノ關係ニ由ルモノデアル。

彼ガ通貨ト物價トノ間ニ存スル關係ヲ説ク場合ニモ一度ハ必ズ此ノ需要供給ニ作用スルコトヲ言フ點ハスチュアートニ酷似シテキル。而シテ此ノ心理的要素ヲ重要視スルコトハヤガテ彼ガヒュム、モンデスキュー等ノ機械的物價決定論ニ反對スル理由トナル。

ソーントンガ流通速度ヲ大イニ重要視シ立チ入ツテ研究シタ點ハ注目ニ價スル。

之ヲ要スルニソーントンハ英蘭銀行辯護者トシテ有力ナル論者デアツタノミナラズ、同時ニ信用券論ノ劇唱者トシテ特別ノ地位ヲ有シテキルコトヲ知ル。而シテ彼ガ英蘭銀行ニ關係シテキタコトガ信用券論ヲ產ンダト同時ニ其ノコトガ屢々彼ノ論調ニ奇異ナル色彩ヲ帶ブルニ至ラシメ却ツテ彼ノ爲ニ不利ナルコトモアツタノデアル。(二九一九・二一・二七稿)